

チャレンジ・アワード 2023

いま
福島の現在を知り、
100年先を考える！

～ 「までいな」 飯舘村の**持続可能な村づくり** ～

研究参画、参加体験、委員会参加から見てきたもの

北海道大学農学院 作物栄養学研究室
修士1年 望月杏樹

ふくしまの現在 ~ 復興・再生への歩み 2/8

震災と原発事故から12年経過

浪江町・富岡町・飯館村における特定復興再生拠点区域を始めとする避難指示解除や生活環境の整備、福島国際研究教育機構（F-REI）の設立など、復興は着実に前進。一方、約2万7千人（令和5年5月現在）の県民が避難生活を続けているだけでなく、依然として課題が山積している。

- 安全かつ着実な廃炉に向けた取り組みの推進



東京電力福島第一原子力発電所

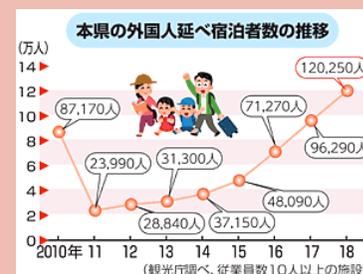
- ALPS処理水の処分に係る責任ある対応



- 大幅に低下した空間線量率



- 観光誘客の促進



再び活性化し、日常生活を取り戻すために、私たちにできることは何だろうか。

- 中間貯蔵開始後30年以内の除去土壌等の県外最終処分



- 約2万7千人の避難者



- 道路等の交通整備網



- 県産物の輸出促進



- 根強く残る風評と風化への対策 ○ いまだ解消しない県産農林水産物の全国との価格差



福島の現状の発信



- 複合災害の記憶や教訓の将来への継承



東日本大震災・原子力廃炉資料館

① 村内居住者

震災前
約6,000人

➔

2023年
1,522人

12歳以下
51人

20-50代
413人

② 農家・新規就農者

震災前
約1,200件

➔

2023年村内
108件

2023年村外
約25件

③ 帰宅困難区域

2023年5月
長泥地区
避難指示解除

- 帰還者高齢化率 **58.9%以上**
- 帰還率 **25.7%**

- 村内外に関わらず 貴重な担い手
- 昨今の飼料・肥料等の物価高騰等の影響を受け、**危機的状況**

- 帰宅困難区域全体の解除には至っていない
- **地区の再生と発展に向けた取り組みが必要**

● なりわいと生きがいの再生と発展を目指す戦略的な取り組み

⇒ 農畜産業の復興・復興関連事業と農林水産省所管の事業活用

⇒ 2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロを目指す

● 生涯現役人口の増加・多様なステークホルダーの参画

⇒ 地域コミュニティの活性化 ⇒ 交流人口・関係人口・定住人口の増加 ⇒ 地域企業の人手不足解消

⇒ **「地域経済の活性化」 「地域の持続可能性確保」**

●福島県と環境省が協力して行われている「環境再生事業」

2011年3月11日の東日本大震災によって東京電力福島第一原子力発電所の事故が発生。

→ 福島の環境再生と復興を目指す取り組みとして、**飯舘村長泥地区**での実証事業。

私が思う今後の課題：「健康」「生活環境に及ぼす影響をすみやかに低減」

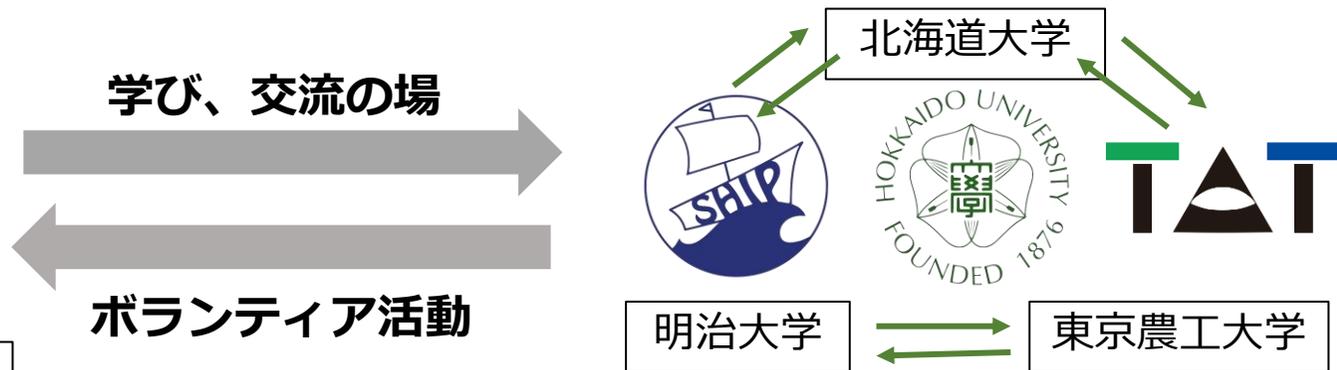
→次世代に「わかりやすい言葉」で自分が学んだ教訓や未来への希望を伝えたい。



福島県・飯舘村の魅力を一人一人が**言葉と体験**でわかりやすく伝えていくことが必要

目的

- 東日本大震災の被災地での営農再開を果たし、**生きがい農業からやりがい農業へ、やりがい農業から生産農業**に更なるステップアップへ。
- 飯舘村で生産される「**美味しい農産物**」を広く発信すると同時に、農作物への**風評被害の解消**を目指す



Q 「までい」とは？

A 「丁寧に」「心を込めて」といった
意味がある東北地方の言葉

協力企業（令和4年度）

東京電力、東京電力パワーテクノロジー
熊谷組、株式会社ダイサン
神鋼環境ソリューション
有限会社大内測量



村カフェ753(なごみ)での料理体験

いいって九重栗かぼちゃ・雷峰いちご&
マーマレード・ナツハゼのベーグル等、
飯館村産の素材を用いた料理体験

福島県でとれた野菜・果物って
こんなに美味しいんですね！



トマトのわき芽かき&誘引作業

やってみると思ったより大変！
飯館村農家さんの日々の努力を
実感しました。



農地の放射線測定

牛を放牧したいが、放射線が規
定量以下になっていることが判
明しないと放牧できないという
事実は知らなかった…

白石小学校で石鹸作り体験

飯館村産の材料で地球に優しい石鹸作り。
こういった小さな活動を通して、持続可能
な社会へと繋がっていくのかもしれない

明治大学大学祭で飯館村産のお米販売

大好評で完売しました！



しかし、いまだに「福島県産の
食べ物は危険」と思っている人
も少なくないと感じた。



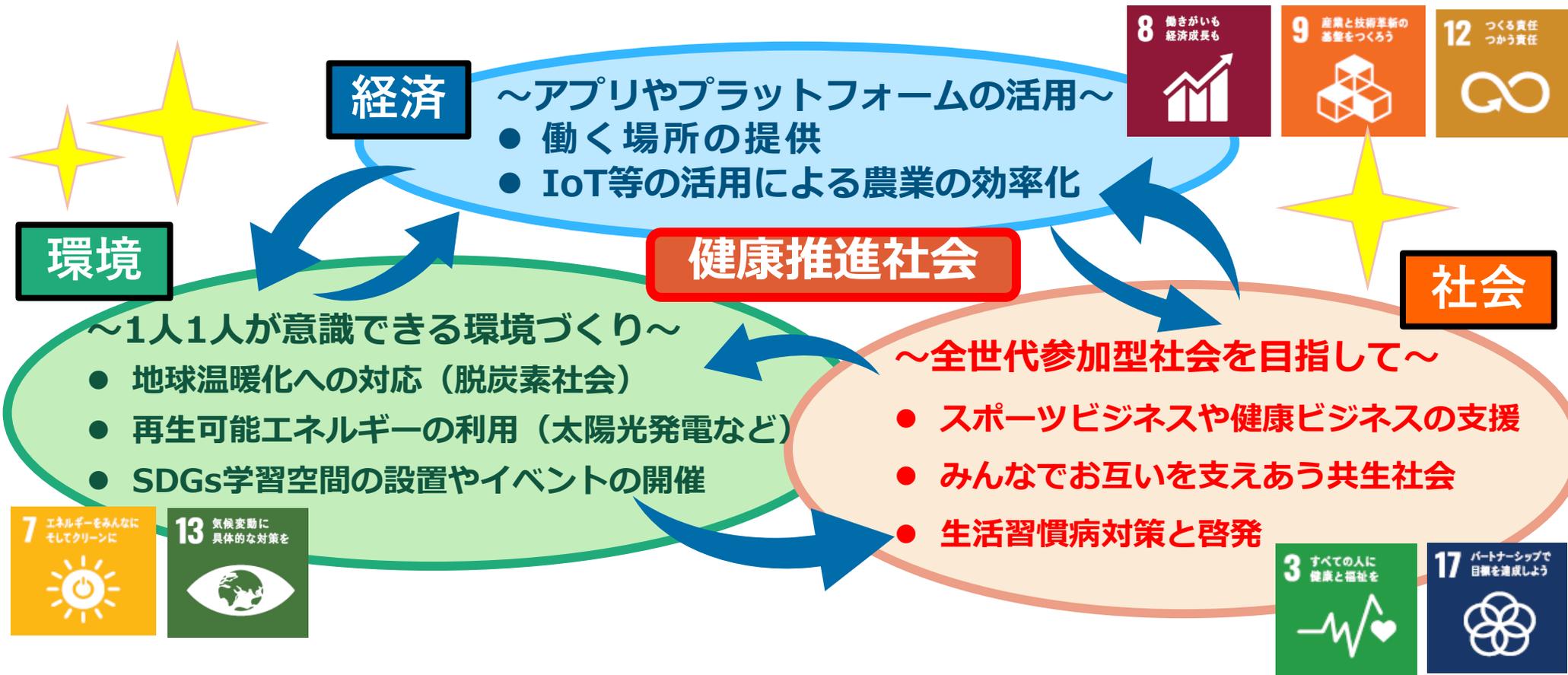
持続可能な村づくりのための「飯館村モデル」

持続可能でSDGsにも貢献できるモデルづくりが必要ではないだろうか？



飯舘村の“自律的好循環”

～ 経済・環境・社会の三側面における相乗効果 ～



私が願う飯舘村（福島）の未来は、

若い世代を中心に多様な人々が全国各地から集まり、
「誰もが自信に満ち溢れ、キラキラ輝ける」村になってほしい。